

2020 年度第 2 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和 2 年 7 月 10 日（金）17:00～19:00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、今泉委員、西川委員、後藤委員
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

大学における数理・データサイエンス・AI 教育支援プラットフォームの更新・充実について確認・検討を進めた。

1. 大学と社会が連携したデータサイエンス・AI 教育の取組みに関するアンケートについて

- ・ 8 大学に 6 月末に依頼をし、一旦 9 月末を期日に情報提供を依頼しており、3 校から回答が得られ、内容を確認した。
- ・ 回答内容は、表形式で整理することにし、プラットフォームに掲載をする。

2. 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムについて

- ・ 公立・私立大学等を対象にコンソーシアムの連携校の公募がされ、連携校が 46 校になった。
- ・ 連携校を含め、関東・首都圏ブロックの会合が行われ、会合では以下の説明があったことが報告された。
 - ※ モデルカリキュラム全国展開のために FD 教員の養成
 - ※ 全国展開に関する特別委員会の設置
 - ※ ブロック別ワークショップ開催の計画
 - ※ 2020 年度にリテラシーレベルプログラムの認定を予定（全学生対象のプログラム）し、認定教育プログラムプラスは来年度に予定
 - ※ コンソーシアム会員校を私立大学に拡大するため継続募集
 - ※ ワorkshop・FD をブロック別にエバンジェリスト（講師）を育成するとともに拡大計画
- ・ リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材や教育用データなどがコンソーシアムページに掲載されているが、全てが私立大学でそのまま活用できるか不明確なため、プラットフォームにコンソーシアムは掲載しているの、具体的な教材の PR は今回見送ることにした。

3. 放送大学オンライン講座の整備計画などについて

- ・ 放送大学では、モデルカリキュラム ABC の教材を 4 月から放送し、LMS に乗せる形での提供も考えられており、例えば「デジタル社会のデータサイエンス」として 8 回分などが計画されている。
- ・ 多様性のデザイン思考が求められる中、市民のなかに眠っている「コレクティブな知」をアクティベートし、AI・機械学習などの「人工的な知」との協働へと導くことで、より効果的で柔軟、かつスケーラビリティのある政策やサービスの実現を目指す〈コレクティブ・インテリジェンス・デザイン〉イノベーションラボ「Nesta」というところの取組みもあることが紹介された。
- ・ 教育イノベーション大会で数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの説明をするため、委員からコンソーシアム特別委員会委員に依頼することにした。

V. 今後のスケジュール

次回の分科会は、10 月以降に開催し、「大学における数理・データサイエンス・AI 教育支援プラットフォーム」の更新・充実について引き続き検討することになっている。